

中国：グリーン成長を積極的に推進、初のグリーン債券を発行¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

重篤な大気汚染、水質汚染を抱える中国は、環境汚染対策への取り組みを強め、中国経済をグリーン経済、グリーン成長へと移行させる政策を積極的に推進している。このような状況下、本年 10 月、中国農業銀行は中国初となるグリーン債券（green bond）10 億ドル分をロンドン外国為替市場で発行した²。

グリーン債券は再エネなどのグリーンプロジェクトに資金を調達する手段として関心を集めているが、その歴史は浅く、発行額も今後世界が必要とする投資額と比べると僅かである。しかしながら近年発行額は増えており、新たな資金調達手段として世界的に注目されている。中国は今後も大規模なグリーン債券の発行を計画しており、今般のグリーン債券の発行は中国の今後の大規模な再エネ導入を支えるのみならず、世界のグリーン債券市場を拡大し、世界の再エネ導入推進を支える金融手段として発展する端緒となる可能性がある。

現在、中国経済は社会主義市場経済から経営の効率化、市場の調整機能を活用する経済へと転換する必要性に迫られ、そのため、資本取引の規制緩和、社債市場の発展、民間資本の活用を図るなどの金融制度改革に着手している。このような金融制度改革を利用したグリーン金融制度の創設についても、財政部、銀行業監督管理委員会等の関係省庁によって検討が進められてきた。

本年 4 月、中国人民銀行が刊行した「グリーン金融制度の創設に向けて」と題するレポート³では、今後 5 年間、毎年 2 兆元（3200 億ドル:38 兆円）のグリーン投資（環境対策: 0.8 兆元、エネルギー部門：0.5 兆元、交通部門：0.5 兆元、省エネ：0.2 兆元）を必要としている。しかしながら政府予算には限りがあるため、民間からの投資を刺激して必要投資額の 85%（2720 億ドル）を調達し、15%（480 億ドル）を政府予算で賄うとする考えが示されている。本レポートは民間からの投資、および、海外からの投資を増やすことが大事であり、その手段の一つとしてグリーン債券の活用推進を挙げている。

¹ 本稿は平成 27 年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外における再生可能エネルギー政策等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

² 今回のグリーン債券の発行は、中国農業銀行とパークレイ銀行、HSBC、J.P. Morgan との共同プロジェクトで、中国人民元と米国ドルの 2 通貨建てで発行された。人民元分 6 億元（9453 万ドル）分は 2 年満期、利率 4.15% で販売され、ドル建て 4 億ドル分は 3 年満期、利率 2.125%、5 億ドル分が 5 年満期、利率 2.75% で販売され、94% をアジアの投資家が、6% を欧州の投資家が購入した。世界初のグリーン債券は 2007 年に欧州投資銀行によって発行された。

³ <https://www.cbd.int/financial/privatesector/china-Green%20Task%20Force%20Report.pdf> 参照

中国初となるグリーン債券を発行した中国農業銀行は中国商工銀行、中国建設銀行、中国銀行とともに中国 4 大銀行の一つである。また、本債券は習国家主席の英国公式訪問時に合わせて発行された。この訪問時には 1) 海外で初となる人民元建て国債をロンドンで発行する、2) 中国の国営企業が英国の原発建設に出資する、3) 中国の国営企業が英国の高速鉄道建設に参入するなどの中英の緊密な経済協力協定が結ばれている。このようなことからグリーン債券の活用を強力に推進しようとする中国政府の思惑が読み取れる。

また、金融立国の英国は「ロンドンを人民元取引の拠点としたい」と考え、中国は「人民元の国際化を急ぎたい」と考えており、今般のグリーン債券の発行は両国の思惑が一致するとも見られている。世界の再エネ導入の進展に影響を与える世界の金融市場の動向を注視する必要がある。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp